

東舞子

2016/04/28 (5月号)
神戸市立東舞子小学校
平成28年度学校だより
<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

真の学ぶ力・生きる力とは

4月14日・16日と二度に渡る震度7の大地震が九州の熊本、大分地方を中心に襲い、多くの方々がその被害に遭われました。今もなお、4万人近い方(4月27日現在)が避難生活を余儀なくされているという報道に、21年前に阪神淡路大震災を経験した私たちは、心を痛まずにはおられません。被災され方々に心よりお見舞い申し上げると共に、神戸から発信・支援できることがあれば、何かお役に立ちたい気持ちでいっぱいです。

さて、新年度がスタートして3週間程が経ち、子供たちは、新しい学年、学級に慣れて明るく元気に学校生活を送っています。先日も、6年生の子供たちが1年生とペアを組み、「校歌教え隊」として、優しく丁寧に歌唱指導をしていました。また、2年生の子供たちは、1年先輩のお兄さん、お姉さんとして、1年生を上手に学校案内していました。そのお蔭で、4月に入学してきた1年生も、学校での様子や約束などいろいろなことを学び、少しずつ学校生活に適應しているように思います。

話は変わりますが、現在の学習指導要領では、学力や体力、規範意識の低下などの児童が抱える課題解決のキーワードとして「生きる力を育む」ことを理念として掲げています。「生きる力」とは、①基礎・基本を身に付け、如何に社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、②自らを律しつつ、他人とともに強調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、③たくましく生きるための健康や体力を指しています。本校が目指す子供像も、これと合致しています。

育ったところ 必ずしも家庭ではない
心を育てられたところが 家庭である
学んだところ 必ずしも母校ではない
よき師 よき友にめぐり会えたところが 学校である
生まれたところ 必ずしも故郷ではない
心をとどめたところが 故郷である



この文は、どんな豪華な家に住んでも、どんなに立派な校舎で学んでも、人間が最後に行き着くところは、真に心を育ててくれた人やところであることを教えています。子供たちの成長にとって何よりの環境は人であると思います。神戸市の教育の基本理念に「人は人によって人になる」という言葉があります。この言葉は、文字通り子供たちの最大の教育環境は、子供を取り巻く学校や家庭、地域社会の在り様や生き方であることを指示しています。真の学ぶ力・生きる力を育むためには、まず私たち大人が、学ぶことの楽しさや生きることの大切さ(値打ち)について身をもって具体的に示すことが必要なのではないでしょうか。「子供は親の背中をみて育つ」と言われますが、親自身が現実と向き合って生きていくことが子供の成長に繋がっていくように思います。自戒の念を込めて……。

校長 梅鉢 泰博